

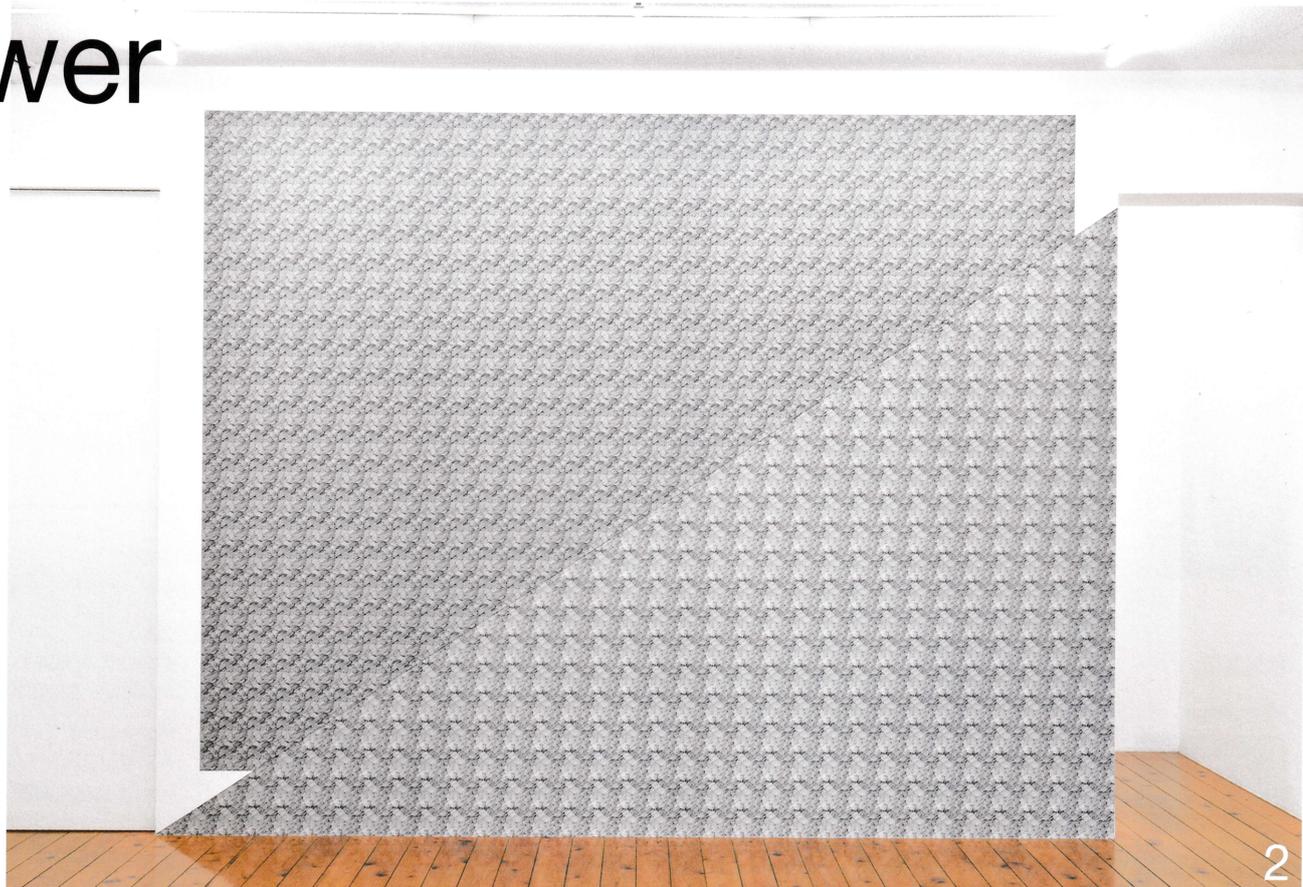
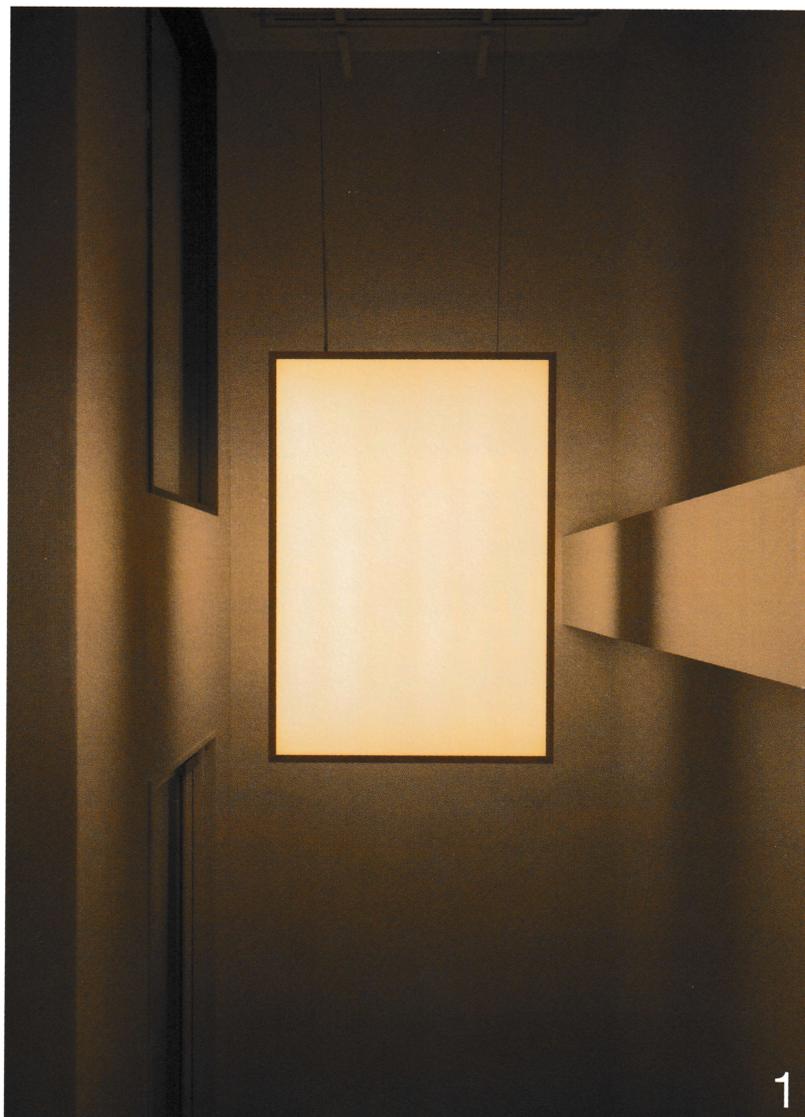
午前10時—午後6時 火曜日休館 入場無料  
2024.10.19 土—12.15 日

1  
松井沙都子  
Signage #1  
2022

2  
松延総司  
Pattern of Dark #1, #2  
(Light and Shade)  
2019

家具と抽出し  
Furniture  
and  
Drawer

Courtesy of ACK, 2022 Photo: Yuki Moriya



# 家具と抽出し Furniture and Drawer

「足りないもの」や「見えていないもの」など、ふだんは意識しにくい物事やそのあり方をミニマルな立体造形を通して考察してきた二人のアーティスト、松井沙都子と松延総司による展覧会「家具と抽出し」を開催します。二人の作品は、展示する空間自体も重要な表現の要素となることから、この企画では、出品作家の松井沙都子がゲストキュレーターとして全体のテーマを練り上げ、コラボレーターの松延総司とともに各展示室の構成を行います。日常生活に空気のように存在している「家具」をモチーフとすることで、私たちがアートを見る目をずらしていくこの試みは、アートを鑑賞するという行為自体への問いかけも含んでいます。本展を通してアートへの様々な想像を巡らせ、多くの疑問や発見に出会っていただければ幸いです。

A-LAB



右 | 松延総司「SHELVES」展会場風景 2013 Photo: Hideaki Toyoura  
左 | 松井沙都子「ホーム・スイート・ホーム」(仮題) 2021 Photo: Yuki Moriya

## イベント

### 家具と抽象とアートのお話

10月26日(土) 午後2時—3時30分

ゲストに沢山遼さん(美術批評家・武蔵野美術大学准教授)をお招きして、出品作家との対談を行います。定員先着20人。メール(amalove.a.lab@gmail.com)で申込必要。(イベント名、氏名、電話番号、参加人数を明記)

### 沢山遼 Ryo Sawayama

美術批評家・武蔵野美術大学美学美術史研究室准教授。著書に『絵画の力学』(書肆侃侃房、2020年)。共著に、国立新美術館(編)『今、絵画について考える』(水声社、2023年)など。1982年生まれ。



## 出品作家

### 松井沙都子 Satoko Matsui



「足りなさ」という観点から、「欠如」を孕む作品を制作している。本展では「現代の日本の家」をモチーフとするインスタレーション作品のほか、「足りなさ」をひとまとまりの構造物に落とし込む「Frames」シリーズを出品する。主な個展に「ホーム・スイート・ホーム」(MEDIA SHOP gallery 2、京都、2019)「モデルハウス」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都、2018)「抽象住宅—ワンルーム—」(ギャラリー恵風、京都、2018)など。1981年生まれ。

### 松延総司 Soshi Matsunobe



「線」「影」「無意識」「地」など捉えどころのない物事を主題とし、それらがどのように人々に知覚され、存在しているのか、その法則や特性を抽出/再構築するような作品を制作している。主な展覧会に「not a house」(MBL Architectes、パリ、2024)「VOCA展2024 現代美術の展望」(上野の森美術館、東京、2024)「雪のうえにのびる道」(札幌文化芸術交流センター SCARTS、北海道、2023)「石と植物」(滋賀県立美術館、滋賀、2022)「Soft Territory かかわりのあわい」(滋賀県立美術館、滋賀、2021)など。2023年ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスにて研修。1988年生まれ。

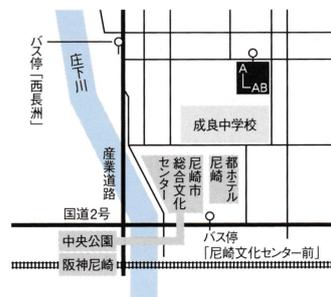
## 家具と抽出し

本展はいわゆる家具の展覧会ではない。展示作品は、もしかすると実際の家具に似ているかもしれないが、その性質や存在の意味は大きく異なる。私と松延さんの作品は、「欠如」や「地」といった捉えどころのない概念を背景に持つ。一方で両者の作品には、形状や材質、構造といった目に見える要素において、共に「家具」的であるという側面を持つ。他者と共有しづらい概念について、より多くの方に想像を巡らせていただくきっかけとなるよう、本展では「家具」をテーマにすることにした。つまり本展に展示されるのは、実際の家具のようでありながら、家具そのものとは言い切れない、美術作品である。

ちなみに展覧会タイトルの「家具」に続く「抽出し」という言葉は、松延さんが提案してくれたもので、美術批評家の沢山遼さんによる「「抽象」と「抽出し」には関連性がある」との話が参照されている。対象からエッセンスを抽出するという意味を持つ「抽象」には、その語の示す通り「抽出し」からものを取り出す所作に通じているためではないかと、私は考えている。馴染み深い「家具」の距離感で作品に接しつつ、美術の本質ともいえる「抽象」の面白さに、少しでも触れていただけるような機会となれば幸いです。

松井沙都子(本展ゲストキュレーター/出品作家)

A LAB 2024年10月19日(土)—12月15日(日)  
開館時間 | 午前10時—午後6時 休館日 | 火曜日 入場料 | 無料



住所  
尼崎市西長洲町2-33-1  
※会場に一般駐車場はありません  
問い合わせ先  
A-LAB | TEL / FAX 06-7163-7108  
尼崎市文化振興課  
TEL 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702  
ama-a-lab.com  
Facebook @amalove.a.lab  
Instagram @alab\_amalove

